

京都府高等学校体育連盟テニス部ポイント制度

I. ポイントについて

1. 高体連テニス部主催大会のポイントについて

高体連テニス部主催の各大会であげた戦績に与えられるポイントは、右の表①のとおりとする。

このポイントは1年間有効で、各大会における倍率も右の表②のとおりとする。

なお、このポイントは、シングルスにおいてもダブルスにおいても各個人に与えられるポイントであり、過去1年間のポイント合計により、シード等を決めるものとする。

<表①>

シングルス		ダブルス	
順位	ポイント	順位	ポイント
1	5 4	1	4 1
2	4 1	2	2 7
4	2 7	4	1 6
8	1 6	8	7
1 6	7	1 6	4
3 2	4	3 2	3
6 4	3	※個人ポイント	

2. ジュニア大会（京都ジュニアのみ）大会のポイントについて

平成15年度の総会及び顧問会議により審議・決定された京都府高校春季大会の廃止に伴い、京都ジュニアテニス選手権をポイント対象大会とし、その戦績に対し下記のようなポイントを与える。ただし、ラッキールーザーで本戦に出場した選手は、本戦に出場しただけ（本戦1R敗退）ならノーポイントとして扱い、本戦で勝ち上げれば戦績に応じたポイントを与えるものとする。

京都ジュニアテニス選手権の18歳以下に出場する高校1・2年生（3月現在）があげた戦績に与えられるポイントは、高体連テニス部主催の各大会で獲得するポイントと同じとし、右の表①のとおりとする。

京都ジュニアテニス選手権の16歳以下に出場する高校1年生（3月現在）があげた戦績に与えられるポイントは、右の表③のとおりとする。

全国総体予選等の高体連テニス部主催の大会での新1年生の有力な選手の参加に対して、ジュニア大会（京都ジュニアテニス選手権のみ）での優秀な戦績に対するポイントを、右の表④のとおりとする。

このポイントは、高体連テニス部主催の大会と同じで、1年間有効とし、各大会における倍率も右の表②のとおりとする。

なお、このポイントは、シングルスにおいてもダブルスにおいても各個人に与えられるポイントであり、過去1年間のポイント合計により、シード等を決めるものとする。

また、全国総体ではなく年度途中から参加する有力な選手に対しても、ジュニア大会で優秀な戦績を残している場合は、参加する大会に見合ったジュニアポイント（この表を基準にして算出）

<表②>

●各大会の倍率

前大会	2 倍
前々大会	1. 5 倍
3大会前	1 倍
4大会前	0. 5 倍

<表③>

●京都Jr16歳のポイント

シングルス		ダブルス	
順位	ポイント	順位	ポイント
1	2 7	1	1 6
2	1 6	2	7
4	7	4	4
8	4	8	3
1 6	3	※個人ポイント	

<表④>

●新1年生のジュニア大会のポイント

	シングルス		ダブルス	
	18歳	16歳	18歳	16歳
優勝	6 2	4 8	3 6	2 5
2位	3 6	2 5	1 6	1 2
4位	1 6	1 2	8	7
8位	8	7	6	3
16位	6	3	4	
32位	4		3	
64位	3	※個人ポイント		

<表⑤>

●ジュニア選手の全国・地域大会の戦績参考大会一覧表（別表）

シングルス		ダブルス	
全国大会	地域大会	全国大会	地域大会
A 全日本 Jr 18歳以下	I 関西 Jr 18歳以下	L 全日本 Jr 18歳以下	O 関西 Jr 18歳以下
B スーパージュニア	J 関西 Jr 16歳以下	M 全日本 Jr 16歳以下	P 関西 Jr 16歳以下
C ジャパンオープン	K 関西ジュニアリリックアップ	N 全国中学 U-15 銅鼓も	U-15 銅鼓関西も
D M U F G ジュニア	※必ずしも、ジュニア冊子に載っている「ポイント制度（K T A ポイント）」の順に従うのではない。あくまでも参考資料である。		
E ジュニアリリック（全日本選抜内）	※上記の各大会で顕著な戦績を残したジュニア選手は、従来通り比較・検討しながら、適切な位置を決定するものとする。		
F 全日本 Jr 16歳以下	※この表によりシードがアップグレードした場合は、それに見合ったジュニアポイントに変更する。		
G U-15 全国選抜（旧中研）			
H 全国中学			

※他府県のジュニアテニス選手権に参加している選手などについては、高体連主催の全国総体や近畿大会などの大会の戦績を評価し、組み入れる場合もある。

を与えるものとする。

新たに高体連主催の大会に参加するジュニア選手で全国大会や地方大会で優秀な戦績を残している選手、及び、他府県のジュニアテニス選手権に参加している選手については、上の表⑤のような別表を設け、総合的に判断するものとする。この表によってアップグレードした場合は、それに見合ったジュニアポイントに変更するものとする。アップグレードの限度は、シングルスは最大第3シードまで、ダブルスは最大第2シードまでとする。

3. ダブルスのペア計算方法について

ダブルスのポイントについては、2人の上記の個人ポイントの合計（ペア合計）とする。よってペア変更をした場合でも、新たに組んだペアの2人の合計ポイントにより決定するものとする。

II. シード選手について

1. シードの決め方について

ポイント合計順にシード（シングルスは1～16、ダブルスは1～8）を決めるものとする。同ポイントの場合は、前大会から順に戦績をさかのぼり、戦績で差がつけば順位を決め、差がつかない場合は顧問会議での抽選で順位を決める。ただし、規定数（Sは16、Dは8）の境界線上の同ポイントで差がつかない場合に限り、規定数を超えることもある。

2. シードの場所抽選について

第1と第2シードが従来通りで、第3シードと第4シードは2シードずつ、第5シード以降は4シードずつ（例えば、第5～8シード、第9～12シード）で場所の抽選を行うものとする。規定数を超えた場合や、その超えた本数が奇数の場合も同様に抽選を行い、場所を決めるものとする。この場所抽選は、2次予選初日の会場で行うものとする。

3. 適応大会について

高体連主催のすべての試合で適応する。

III. ダイレクトイン選手と予選ブロックシード選手、及び、予選通過選手について

1. ダイレクトインの選手の選考について

ポイント合計順にシード選手の次から選考し、選手の総本数が規定数を超えないように選考するものとする。ただし、ダイレクトインの最大数はシード規定数の半分（Sは8、Dは4）までとし、本戦ドロウ数が基準に満たない場合は予選のブロック人数を変えることで対応する。ただし、規定数の境界上の同ポイントの場合は、シード順位の決定と同様に前大会から順にさかのぼり差がつくのであれば順位に差をつける。また、エントリー制限になった場合は、同ポイントが複数名でしかも過去の戦績で差がつかない場合は、規定数を超えないようにその手前で止めて、最終的に残る場所はBYEとする。エントリー制限されない場合は、規定数の境界線上の同ポイントで差がつかない場合に限り、規定数を超えて予選の人数で調整することになる。

反対に、シード選手と予選通過選手で規定数と同じまたは超える場合はダイレクトインの選考は行わないものとする。

2. 予選ブロックシード選手について

ポイント合計順にシード選手、あるいはダイレクトイン選手の次から選考し、選手の総本数が予選ブロック数を超えないように選考するものとする。ただし、規定数の境界上の同ポイントの場合は、シード順位の決定と同様に前大会から順にさかのぼり差がつくのであれば順位に差をつけ、同ポイントが複数名でしかも過去の戦績で差がつかない場合は、エントリー委員会で厳正なる抽選を行い、規定数（予選ブロック数）までのブロックシードを決定する。予選ブロックでの位置は各ブロックの1番上とし、顧問会議での抽選で決定する。

3. ダイレクトインの選手と予選通過選手の場所について

ダイレクトインと予選通過の選手の場所はすべての大会でフリー抽選とする。この抽選は、2次予選初日の会場で行うものとする。

IV. 団体戦のポイントについて

1. ポイント該当大会について

団体戦においては、個人戦と同様、京都ジュニアテニス選手権を含め、直前の2大会のポイント合計とする。ただし、個人戦同様京都ジュニアにおいては、ラッキーローザーで本戦に出場しただけ（本戦1R敗退）ならノーポイントとして扱い、本戦で勝ち上がれば戦績に応じたポイントを与えるものとする。

2. 全国総体予選と全国選抜予選のポイントについて

全国総体予選と全国選抜予選は対戦本数や登録人数が違うため、以下のように両大会のポイントを変えるものとする。

<表⑥>

●全国総体予選団体のポイント

シングルス		ダブルス	
順位	ポイント	順位	ポイント
優勝	5 4	優勝	2 7
2位	4 1	2位	2 0
4位	2 7	4位	1 3
8位	1 6	8位	8
16位	7	16位	3
32位	4	32位	2
64位	3	※個人ポイント	

3. 全国総体予選における高体連主催の大会のポイントについて

全国総体予選におけるポイントは直前大会を京都ジュニアテニス選手権大会とする。前々大会は高体連テニス部主催の大会であるので、その大会であげた戦績に与えられるポイントは右の表⑥のとおりとする。

また、その倍率は右の表⑦のとおりとする。つまり、高体連テニス部主催の高校選手権大会の倍率は、0.5倍となる。

<表⑦>

●各大会の倍率

前大会	1 倍
前々大会	0.5倍

4. 全国総体予選におけるジュニア大会（京都ジュニアテニス選手権）のポイントについて

全国総体予選において、直前大会となる京都ジュニアテニス選手権であげた戦績に対するポイントは、個人戦と同様とする。

京都ジュニアテニス選手権の18歳以上に出場する高校1・2年生（3月現在）があげた戦績に与えられるポイントは、高体連テニス部主催の各大会で獲得するポイントと同じとし、右の表⑥のとおりとする。倍率は1倍とする。

京都ジュニアテニス選手権の16歳以上に出場する高校1年生（3月現在）があげた戦績に与えられるポイントは、右の表⑧のとおりとする。倍率は1倍とする。

新1年生の有力な選手の参加に対して、ジュニア大会（京都ジュニアテニス選手権）での優秀な戦績に対するポイントを、右の表⑨のとおりとする。倍率は1倍とする。

また、個人戦と同様に、別表<表⑤>によりアップグレードした選手については、それに見合ったポイントに変更するものとする。

<表⑧>

●京都Jr16歳のポイント

シングルス		ダブルス	
順位	ポイント	順位	ポイント
1	2 7	1	1 3
2	1 6	2	8
4	7	4	3
8	4	8	2
1 6	3	※個人ポイント	

<表⑨>

●全国総体予選団体の新1年のジュニアポイント

	シングルス		ダブルス	
	18歳	16歳	18歳	16歳
優勝	4 0	3 4	2 0	1 7
2位	2 3	1 9	1 1	9
4位	1 0	8	5	4
8位	5	4	2	1
16位	4	2	2	
32位	3		1	
64位	2		※個人ポイント	

5. 全国選抜予選における高体連主催の大会のポイントについて

全国選抜予選における高体連テニス部主催の各大会であげた戦績に与えられるポイントは、右の表⑩のとおりとする。

また、その倍率は、右の表⑦のとおりとする。

<表⑩>

●全国選抜予選団体のポイント

シングルス		ダブルス	
順位	ポイント	順位	ポイント
優勝	1 4	優勝	7
2位	1 2	2位	6
4位	1 0	4位	5
8位	8	8位	4
16位	6	16位	3
32位	4	32位	2
64位	2	※個人ポイント	

6. 全国選抜予選におけるジュニア大会のポイントについて

全国選抜予選において、初めて高体連主催の大会に参加するジュニア選手で全国大会や地方大会で優秀な戦績を残している選手については、全国総体予選と同様に総合的に判断し、この大会に見合ったポイントを与えるものとする。

V. 団体戦のシードについて

1. チームポイントの計算方法について

両大会とも、対戦出場本数分（総体はS 2本・D 1本<2名>、選抜はS 3本・D 2本<4名>）の個人合計ポイントを、兼ねない形で、チームとして最大になるように合計する。

2. シードの決め方について

第1条件を、「全国総体予選ではポイント保有者が2名以上、全国選抜予選ではポイント保有者が3名以上で、両大会とも必ずその中にシングルのポイント保有者が含まれていること」とする。まず、条件を満たしている学校のチームポイントの合計順にシード（33ドローを超える場合は16まで、32ドローまでは8シードまで）を決めるものとする。ポイント僅差によるシミュレーションは行わない。ただし、同ポイントの場合のみ個人ポイント合計による仮想シミュレーションを行い、これで差がつくようであれば順位に差をつけ、差がつかない場合は顧問会議での抽選で順位を決める。また、16シードの場合は、規定数の境界上の同ポイントで差がつかない場合でも規定数は超えずに顧問会議の抽選により決定する。8シードの場合は、規定数の境界上の同ポイントで差がつかない場合に限り、規定数を超えることもある。

第2条件を、「シード選考最低ポイント为全国総体予選では10ポイント、全国選抜予選では8ポイント」とし、チームポイント合計がそれ未満の場合は第1条件を満たしていてもシードに選考しない（16シードまでつかないで途中で切れる場合もあるが、どの場合も最低8シードは置くものとする）。

全国総体予選においては、1次予選で京都市部予選と両丹支部予選での実施の後、その勝ちあがりチームによる府内予選を実施する形式を尊重した、適切なシードを置くこととする。

3. シードの場所抽選について

個人戦と同様、第1と2シードは従来通りで、第3シードと第4シードは2シードずつ、第5シード以降は4シードずつ（例えば、第5～8シード）で場所の抽選を行うものとする。規定数を超えた場合やその超えた数が奇数の場合も同様である。

全国総体予選においては、上記のような1次予選での市・支部予選や府内予選の形式を尊重したシード位置の抽選を行うこととする。

この抽選は、生徒代表者会議で行うものとする。

VI. 団体戦の登録選手のしぼりについて

1. 団体戦の登録選手のしぼりについて

直前2大会でのシングルの個人合計ポイントが4ポイント以上の選手を第1基準とし、そのポイント順に選手登録しなければならないとする。また、直前2大会でのシングルの個人合計ポイントが4ポイント未満の選手を第2基準とし、ノーポイントの選手よりは上位に選手登録しなければならないとする。（ダブルスのポイントは考慮しない。）また第1基準で同点の場合、4ポイント未満の第2基準の選手、及び、ノーポイントの選手はそれぞれ「校内順位」に従うものとする。

VII. その他

1. 不測の事態の対応について

このポイント制度で対応しきれない問題や不測の事態の対応については、常任委員会で検討し、その大会の顧問会議（ドロー会議）の席上で承認をもらい、対応していくものとする。

2. 実施について

このポイント制度は、平成11年8月の近畿高等学校テニス大会より実施するものとする。

3. 本戦（府内2次予選）の出場辞退について

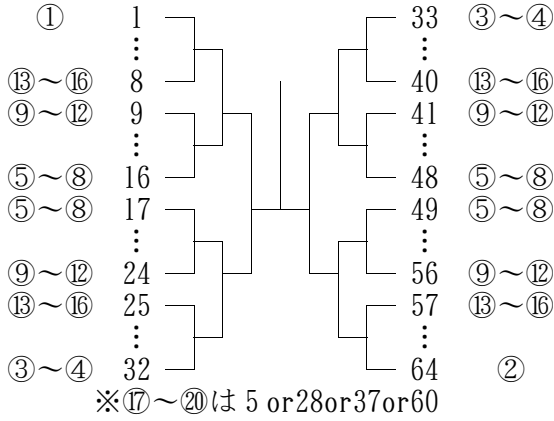
本戦（府内2次予選）を修学旅行等の事前に判明している理由で辞退する場合は、事前に公印のある辞退届を提出する。また、病気や怪我等の不測の事態で欠場した場合（遅刻等の会場に来ている場合は除く）は、事後速やかに公印のある辞退届を提出する。この届けの提出をもって該当するポイントを与える。

平成11年2月13日	制	定
平成15年3月15日	改	正
平成16年3月13日	改	正
平成17年3月12日	改	正
平成18年3月11日	改	正
平成20年3月15日	改	正
平成22年3月13日	改	正
平成25年3月9日	改	正
平成26年4月12日	改	正

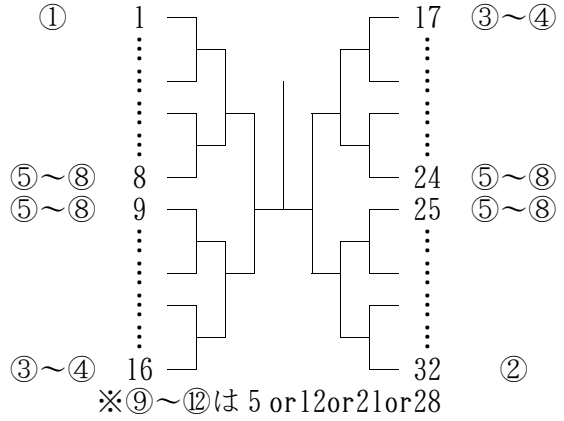
■ポイント制度補足説明■

◆基本シード場所抽選について◆

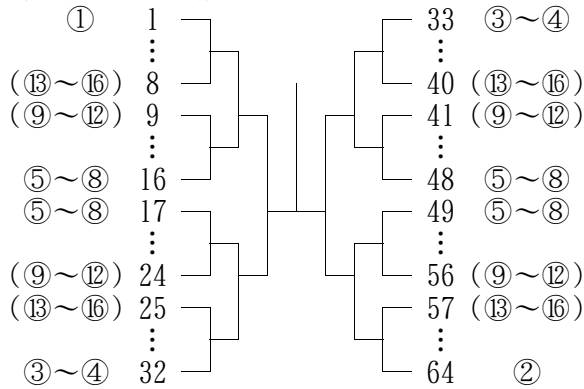
◇シングルス



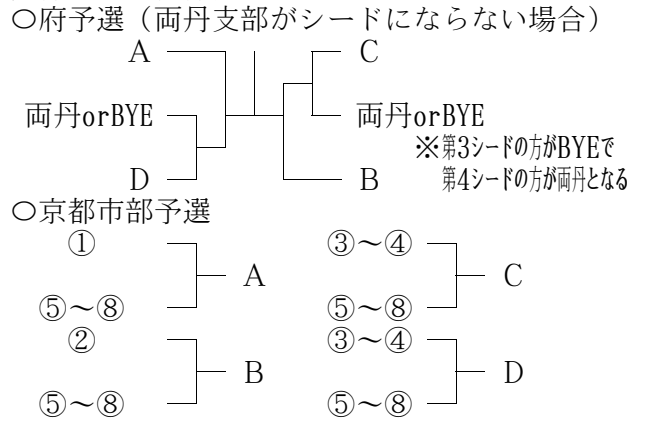
◇ダブルス



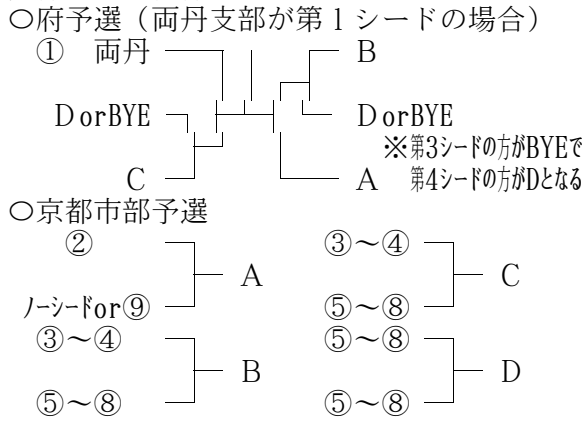
◇団体（全国選抜）



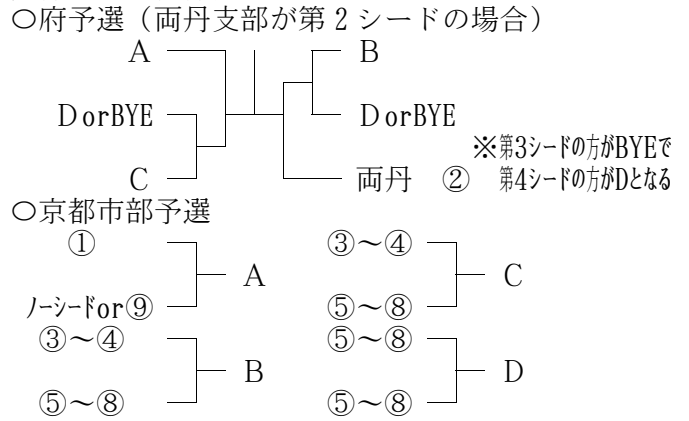
◇団体（全国総体）その1



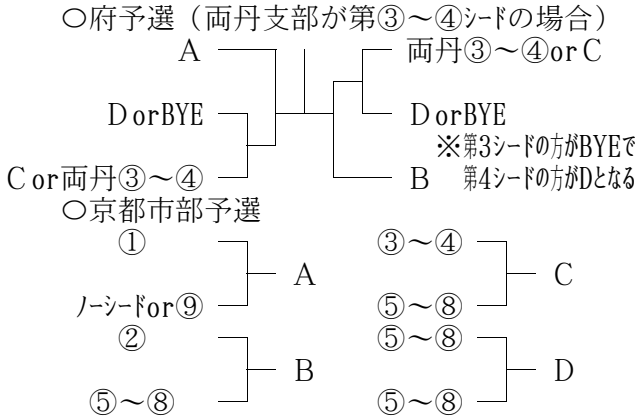
◇団体（全国総体）その2



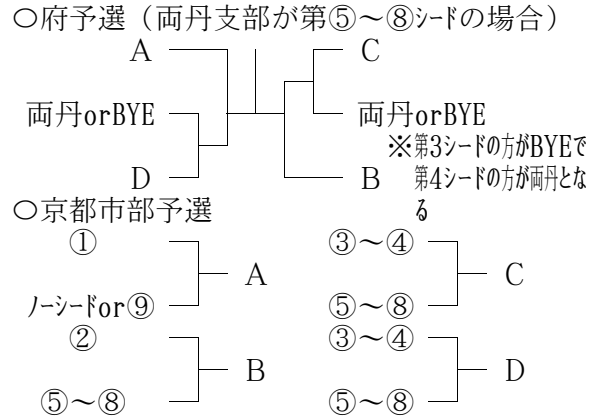
◇団体（全国総体）その3



◇団体（全国総体）その4



◇団体（全国総体）その5



※全国総体予選は、両丹支部の勝ち上りを尊重したドローとし、⑨~⑯を適切な場所に置くこととする。

■各大会についての確認事項■

No. 1

◆近畿大会予選について◆（「エントリーに関する規定」に伴うエントリー制限大会）

<1次予選の各ブロックの最大人数は男子16名、女子15名とする。>

◇試合方法 — すべて1セットマッチを原則とする。ただし、府内1次予選にはノーアドバンテージ方式を採用する。また、府内2次予選のダイレクトイン選手と予選通過選手の場所はフリー抽選とする。

◇府内1次予選免除（2次予選進出）者 — 規定に従い、シード選手、及び、ダイレクトイン選手

◇京都市部予選のブロックシード — 1. 上記のシード・ダイレクトイン選手を省いたポイントの高い選手から順に、規定に従い、予選ブロックの数だけブロックシード選手とする。

2. 顧問会議出席校の各校No.1選手を次の候補とする。

※ポイント保有者で予選ブロックシードが満たない場合は、ブロックの上箱、下箱、中下箱、中上箱を各校No.1で埋める。

◇ドロー貼り付け順 — 1. シード選手（2次予選ドローへ）
2. ダイレクトイン選手（あれば2次予選ドローへ）
3. 上記の予選ブロックシード選手（予選の上箱へ）
4. 顧問会議出席校の各校No.1選手（予選の下箱から順に）
5. その他の選手

◇ドロー作成注意 — 1. 順位決定戦（近畿出場本数による）の有無
2. エントリーに関する規定による、参加許可人数の確定
3. 1次予選では、基本的には同校が同じブロックに入らないようにする。

◇国体選手の扱い — 国体の近畿地区予選とこの近畿大会予選が重なる場合は、シングルス・ダブルスとも近畿大会ストレートインとする。

※ポイントについては、シングルスは優勝扱い、ダブルスはシード順位扱いとする。

◇会議 — エントリー委員会 ⇒ 常任委員会 ⇒ 顧問(ドロー)会議 ⇒ 生徒代表者会議
(エントリー締切日) (ドロー作成・大会についての連絡) (ボール・ドロー配布、大会注意)

◇ドロー抽選 — 1. シード順位の抽選（差がつかない場合）は顧問会議で顧問が行う。
2. シードの場所抽選、ダイレクトイン選手や予選通過者の場所抽選は、2次予選初日に大会会場で選手が行う。
3. 予選ブロックシードの抽選（差がつかない場合）は、エントリー委員会で行う。

◇試合球 — 近畿高校テニス大会の使用球とする。

◇ボール・ドローの配布 — 生徒代表者会議にて配布。

◇試合前のウォーミングアップ — サービス4本とする。

◆京都府公立高校大会について◆（公立高校（設置者別）によるオープン大会）

◇すべて、公立高校大会実行委員会に委ねる。

◆全国選抜予選（団体）について◆（オープン大会）

◇試合方法 — QFの前までは1セットマッチを原則とし、QF～Fと順位決定戦は8プロセットマッチを原則とする。5～8位決定戦については、1セットマッチノーアドバンテージ方式を原則とする。（ただし、5～8位決定戦は予備日を使用しないでの実施とする。）

◇参加条件 — 登録人数は7名以上9名までとする。

◇登録 — 登録締切日（エントリー委員会）までにメンバー登録を提出すること。

◇登録選手のしぼり — ポイント規定の「VI. 団体戦の登録のしぼりについて」により、第1基準及び第2基準に従って登録をしなければならない。

◇ドロー貼り付け順 — 1. シード校
2. その他の学校

◇会議 — エントリー委員会 ⇒ 常任委員会 ⇒ 顧問(ドロー)会議 & 生徒代表者会議
(エントリー締切日) (ドロー作成・大会についての連絡) (ドロー抽選、ボール配布、大会注意)

※顧問会議と生徒代表者会議は同日開催（生徒代表者会議は顧問会議の1時間遅れで開催）とし、顧問会議でシード決定後、生徒代表者会議で抽選、会場調整後、顧問会議で会場発表する。

※顧問会議は京都府高校選手権大会の顧問会議と一緒に開催することを原則とするが、年度によって単独で開催することもある。

◇ドロー抽選 — 1. シード順位の抽選（差がつかない場合）は顧問会議で顧問が行う。
2. シードの場所抽選、シード校以外の場所抽選は、生徒代表者会議で生徒代表者が行う。

◇試合球 — 全国高校選抜大会の使用球とする。

◇ドローの配布 — 試合当日に配布。

◇試合前のウォーミングアップ — 原則としてサービス4本であるが、8プロセットマッチを実施するラウンドについては3分間のウォーミングアップとする。

◆京都高校選手権について◆（「エントリーに関する規定」に伴うエントリー制限大会）

<1次予選の各ブロックの最大人数は男女共12名とする。>

◇試合方法 — すべて1セットマッチを原則とする。ただし、府内1次予選にはノーアドバンテージ方式を採用する。また、府内2次予選のダイレクトイン選手と予選通過選手の場所はフリー抽選とする。

◇府内1次予選免除（2次予選進出）者 — 規定に従い、シード選手、及び、ダイレクトイン選手

◇京都市部予選のブロックシード — 1. 上記のシード・ダイレクトイン選手を省いたポイントの高い選手から順に、規定に従い、予選ブロックの数だけブロックシード選手とする。
2. 顧問会議出席校の各校No.1選手を次の候補とする。
※ポイント保有者で予選ブロックシードが満たない場合は、ブロックの上箱、下箱、中下箱、中上箱を各校No.1で埋める。

◇ドロー貼り付け順 — 1. シード選手（2次予選ドローへ）
2. ダイレクトイン選手（あれば2次予選ドローへ）
3. 上記の予選ブロックシード選手（予選の上箱へ）
4. 顧問会議出席校の各校No.1選手（予選の下箱から順に）
5. その他の選手

◇ドロー作成注意 — 1. エントリーに関する規定による、参加許可人数の確定
2. 1次予選では、基本的には同校が同じブロックに入らないようにする。

◇会議 — エントリー委員会 ⇒ 常任委員会 ⇒ 顧問(ドロー)会議 ⇒ 生徒代表者会議
(エントリー締切日) (ドロー作成・大会についての連絡) (ボール・ドロー配布、大会注意)

※顧問会議は全国選抜予選の顧問会議と一緒に開催することを原則とするが、年度によって単独で開催することもある。

◇ドロー抽選 — 1. シード順位の抽選（差がつかない場合）は顧問会議で顧問が行う。
2. シードの場所抽選、ダイレクトイン選手や予選通過者の場所抽選は、2次予選初日に大会会場で選手が行う。
3. 予選ブロックシードの抽選（差がつかない場合）は、エントリー委員会で行う。

◇試合球 — ダンロップ（フォートイエロー）とする。

◇ボール・ドローの配布 — 生徒代表者会議にて配布。

◇試合前のウォーミングアップ — サービス4本とする。

◆京都府私立高校大会について◆（私立高校（設置者別）によるオープン大会）

◇すべて、私立高校大会実行委員会に委ねる。

◆全国総体予選（個人）について◆（「エントリーに関する規定」に伴うエントリー制限大会）

<1次予選の各ブロックの最大人数は男子16名、女子15名とする。>

◇試合方法 — 府内2次予選は8プロセットマッチを原則とする。ただし、府内1次予選には、1セットマッチノーアドバンテージ方式を採用する。また、府内2次予選のダイレクトイン選手と予選通過選手の場所はフリー抽選とする。

◇府内1次予選免除（2次予選進出）者 — 規定に従い、シード選手、及び、ダイレクトイン選手

◇京都市部予選のブロックシード — 1. 上記のシード・ダイレクトイン選手を省いたポイントの高い選手から順に、規定に従い、予選ブロックの数だけブロックシード選手とする。
2. 顧問会議出席校の各校No.1選手を次の候補とする。
※ポイント保有者で予選ブロックシードが満たない場合は、ブロックの上箱、下箱、中下箱、中上箱を各校No.1で埋める。

◇ドロー貼り付け順 — 1. シード選手（2次予選ドローへ）
2. ダイレクトイン選手（あれば2次予選ドローへ）
3. 上記の予選ブロックシード選手（予選の上箱へ）
4. 顧問会議出席校の各校No.1選手（予選の下箱から順に）
5. その他の選手

◇ドロー作成注意 — 1. 順位決定戦（総体出場本数による）の有無
2. エントリーに関する規定による、参加許可人数の確定
3. 1次予選では、基本的には同校が同じブロックに入らないようにする。

◇会議について — エントリー委員会 ⇒ 常任委員会 ⇒ 顧問(ドロー)会議 ⇒ 生徒代表者会議
(エントリー締切日) (ドロー作成・大会についての連絡) (ボール配布・ドロー抽選、大会注意)

※顧問会議は個人戦と団体戦を同時に行う。

※生徒代表者会議で、団体戦のドロー抽選を行う。(メンバー表を提出すること)

- ◇ドロー抽選 — 1. シード順位の抽選(差がつかない場合)は顧問会議で顧問が行う。
2. シードの場所抽選、ダイレクトイン選手や予選通過者の場所抽選は、2次予選初日に大会会場で選手が行う。
3. 予選ブロックシードの抽選(差がつかない場合)は、エントリー委員会で行う。
- ◇試合球 ——— 全国高校総体の使用球とする。
- ◇ボール・ドローの配布 — 生徒代表者会議にて配布。
- ◇試合前のウォーミングアップ — 原則としてサービス4本であるが、府内2次予選の2日目以降の8プロセットマッチを実施するラウンドについては3分間のウォーミングアップとする。

◆全国総体予選(団体)について◆(オープン大会<府内1次予選京都市部は京都総体と兼ねて実施>)

- ◇試合方法 — すべて1セットマッチを原則とし、代表決定の係わる直前の試合(SFとF)より3セットマッチを原則とする。
- ◇参加条件 — 登録人数は4名以上5名までとする。ただし、全国総体、及び、近畿選抜には5名の登録が必須である。
- ◇登録 ——— 登録〆切日(エントリー委員会)までに参加の有無を提出、個人戦の生徒代表者会議でメンバー登録表を提出すること。
- ◇登録選手のしぼり — ポイント規定の「VI. 団体戦の登録のしぼりについて」により、第1基準及び第2基準に従って登録をしなければならない。
- ◇ドロー貼り付け順 ————— 1. シード校
2. その他の学校
- ◇ドロー作成注意 — 両丹支部の学校がシードに入った場合の京都市部予選でのシードの場所抽選の仕方について
- ◇会議について — エントリー委員会 ⇒ 常任委員会 ⇒ 顧問(ドロー)会議 <生徒代表者会議は(エントリー締切日)(ドロー作成・大会についての連絡)実施しない>
※顧問会議は個人戦と団体戦を同時に行う。
※団体戦の生徒代表者会議は実施しないが、個人戦の生徒代表者会議でドロー抽選を行う。(メンバー登録表を提出すること)
- ◇ドロー抽選 — 1. シード順位の抽選(差がつかない場合)は顧問会議で顧問が行う。
2. シードの場所抽選、シード校以外の場所抽選は、生徒代表者会議で生徒代表者が行う。
- ◇試合球 ——— 全国高校総体の使用球とする。
- ◇ボール・ドローの配布 — 個人戦の生徒代表者会議にて配布。
- ◇試合前のウォーミングアップ — サービス4本とする。

◀設置者別大会(公立高校大会&私学大会)の確認事項▶

1. 公立高校大会<近畿公立高校大会団体戦の予選大会としての位置づけ>

試合方法: 団体戦<近畿公立団体と同じ全国選抜形式(S3D2)>とする。

上位大会への推薦: この大会結果に基づき、近畿公立団体戦への推薦順位を決定する。

※近畿公立高校大会個人戦の予選大会は京都府公立高校大会個人戦とし、優勝者と準優勝者は近畿公立個人戦への推薦(1~2位)を与える。残りの枠の推薦は、高校選手権終了時の過去1年間のポイントにより、上位から順に推薦する。ただし、個人戦1次予選は、団体1次予選が天候により実施できなかった場合は中止となるので、その際はすべての推薦を上記同様、高校選手権終了時の過去1年間のポイントにより、上位から順に推薦する。ポイントによる推薦で同ポイントの場合、1次予選の結果を加味して、差がつく場合は差をつけ、差がつかない場合は抽選とする。

2. 私学大会<近畿私学大会の予選大会としての位置づけ>

試合方法: 団体戦<近畿私学と同じシングルス1本ダブルス2本の特別形式>とする。

上位大会への推薦: この大会結果に基づき、近畿私学団体戦への推薦順位を決定する。

※近畿私学個人戦の予選大会は実施しない。この大会への推薦は、平成29年度までは高校選手権終了時の過去1年間のポイントにより、上位から順に推薦していたが、上部大会の申し込み時期など加味して、平成30年度からは夏の顧問会議までに検討して、新たな選考基準を作成して推薦するものとする。